

令和 6 年度浦安市教育委員会 2 月定例会会議録

浦 安 市 教 育 委 員 会

令和6年度浦安市教育委員会2月定例会

I. 日 時	令和7年2月14日（金）		
	開 会	午後3時00分	
	閉 会	午後3時55分	
II. 場 所	文化会館 3階中会議室		
III. 進 行	教 育 長	船 橋 紀美江	
IV. 出席委員	教 育 長 職 務 代 理 者	宮 道 力	
	委 員	吉 野 則 子	
	委 員	影 山 純 二	
	委 員	佐 藤 勇 人	
V. 出席説明者	教 育 次 長	田 中 健 一	
	教 育 総 務 部 長	大 塚 一 樹	
	教 育 総 務 部 次 長	落 合 幸一郎	
	教 育 総 務 部 技 監	泉 澤 一 欽	
	教 育 総 務 課 長	宇田川 順 子	
	教 育 政 策 課 長	小 池 康 裕	
	教 育 施 設 課 長	内 山 達 夫	
	学 務 課 長	鳥 海 勉	
	指 導 課 長	村 上 陽 子	
	指導課主幹（教育センター所長）	青 山 陽 子	
	保 健 体 育 安 全 課 長	峯 崎 泰 利	
	千鳥学校給食センター所長	本 沢 誠	
	生 涯 学 習 部 長	近 藤 敏 彰	
	生 涯 学 習 部 次 長	北 嶋 純 代	
	生涯学習課長（青少年センター所長）	斉 藤 恭 一	

生涯学習課主幹	島本 まり子
生涯学習部副参事(市民スポーツ課長)	本川 昇
郷土博物館長	島村 嘉一
高洲公民館長	佐藤 良平
中央公民館長	増田 丈巳
堀江公民館長	菅原 満
富岡公民館長	原 早苗
美浜公民館長	佐藤 栄一
当代島公民館長	高梨 誠二
日の出公民館長	北村 章代
中央図書館長	森田 志織
保育幼稚園課長補佐	興 梶 弘 樹

VI. 傍聴人 4名

VII. 案 件

第1. 会議録の承認

1. 令和6年度浦安市教育委員会 12月定例会会議録の承認について

第2. 教育長からの一般報告

第3. 審議事項

議案第1号 浦安市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則の制定について

第4. 協議事項

1. 「浦安市学校施設長寿命化計画」の改訂について

第5. 報告事項

1. 教育委員会共催・後援行事一覧
2. 令和6年度小中学校保護者及び教員の教育に関する意識調査の報告について

3. 「令和6年度 浦安市成人式 二十歳の集い」開催結果

4. 令和6年度第3回公民館運営審議会開催報告

第6. 教育委員からの一般報告

第7. その他

開 会 （午後 3 時00分）

船 橋 教 育 長 これより令和 6 年度浦安市教育委員会 2 月定例会を始める。
議事に入る。

議事の第 1、会議録の承認である。

1、令和 6 年度浦安市教育委員会12月定例会会議録について、承認いただけるか。

（「異議なし」の声あり）

船 橋 教 育 長 異議がないので、令和 6 年度浦安市教育委員会12月定例会会議録については、承認された。

なお、会議録の承認に当たり、会議録の署名を影山委員にお願いする。

次に、議事の第 2、教育長からの一般報告に移る。

私から報告する。

初めに、視察について 2 件報告する。

1 件目は、1 月10日に教育委員の皆様と静岡県掛川市教育委員会へ行ってきた件である。

掛川市は令和 8 年度に部活動を廃止し、様々な地域団体が運営するかけがわ地域クラブとして、スポーツ・文化芸術活動を行える環境整備に取り組んでいる。

子ども達の放課後の居場所づくりとして開設した公認地域クラブには、スポーツだけでなく野菜づくりなどの活動もあり、不登校傾向にある子どもの居場所にもなっているというお話は大変興味深かった。現在本市においても、部活動の地域展開について検討を重ねているところである。

実は先日、早朝に散歩をしていると、私が校長として勤務していた学校の卒業生にばったり会った。早朝にもかかわらず爽やかな表情で、中学校の部活動に向かう姿がとても印象的だった。充実感に満ちた表情から、部活動というエネルギーを注ぐ場を見つけたのだなと、私自身、幸せな気持

ちになった。

本市においても、コミュニティ・スクールの機能を生かすなど、市内で活動する様々な団体の御協力をいただきながら、子ども達の多様な活躍の場の設定、居場所づくり、そして教職員の業務改善という視点から、浦安の実態に応じた部活動の地域展開について準備を進めていく。

2件目は、1月21、22日の2日間で、大阪市立心和中学校と奈良県大和郡山市のASUへの視察についてである。いずれも学びの多様化学校であり、ASUは郡山北小学校、郡山中学校の分教室である。どちらも子ども達が登校していない時間帯に視察をさせていただいたが、子ども達が普段使っている学習机には、それぞれ自分の好きなキャラクターの人形やカラフルな文房具が置いてあり、子ども達が自分の居場所として居心地のよい空間をつくり出していると感じた。

印象的だったことは、どちらの学校の校長先生や先生方も、おおらかにゆったりとした姿勢で子どもに向き合っているということである。通う子ども達と直接関わる先生方のこうした姿勢こそが、とても大切であると感じた。

本市においても、いよいよ4月に学びの多様化学校、浦安中学校分教室が開室する。名称はローマ字で「UMI」に決定し、今日現在13名の生徒が入室する予定である。

UMIは、三方を水に囲まれた本市が海と共に発展してきたこと、生徒には、やがて社会という大きな海で自信を持って活躍してほしいという願いを込めた。

「U」は浦安で、「M」は未来を、「I」は彩ると表現し、その頭文字から「UMI」とした。13名の生徒一人一人に寄り添いながら、まずはUMIがその子にとって安心して過ごすことのできる場となるよう、そして、自立に向けて自分のよさを再発見し、可能性を発揮できる場となるよう、学校、地域、保護者、行政が一体となって取り組んでまいる。

さらにはUMIの開室を機に、市内全体の不登校傾向にある児童生徒に対して、さらなる支援の充実が図れるよう取り組んでまいる。

次に、生涯学習について報告する。

1月18日、19日に新浦安駅前のステージにおいて、浦安藝大アートプロジェクトのワークショップ「みんなのうみ」を開催した。

事前に市内の園児や児童がカラーフィルムで作った様々な海の生き物のキットを、参加者がステージの背面に貼り付け、浦安の海を表現するものである。

子どもらしい発想の様々な形のカラーフィルムのキットを何枚も重ねて貼っていくうちに、市民と子ども達の手作りの海が出来上がった。当日はキットを作ってくれた子ども達も、保護者の方と一緒に参加する姿もたくさん見られた。「私が作ったのはこれだよ」とうれしそうに伝える様子、作品をバックに記念撮影をする様子がほほ笑ましく、心温まる光景だった。

浦安の歴史は海と共にある。未来の地域の担い手である子ども達が、海にまつわるアートを通してふるさと浦安と向き合い、誇りや愛着が醸成される活動であったと思う。

1月24日には、この作品の一部を会場に移し、それをバックに市長と東京藝術大学の学長、日比野克彦先生とのトークイベントを行った。

参加者の方の中に、お子さんと「みんなのうみ」のプロジェクトに参加されたお父さんがいらしていた。『みんなのうみ』のワークショップでは、子どもが目をきらきらと輝かせて取り組んでいた。アートプロジェクトを通じて、小さいうちから芸術に触れる機会をもっと増やしていただきたいという御意見をいただいた。

また、別のプロジェクトである護岸アーカイブでは、市内の高校生からお手紙をいただいた。手紙の内容は、「浦安の歴史が大好きな私は、埋立て前のことを考えながら楽しませてもらった」というものだった。一方で、アートプロジェクトに対しては、アートで浦安をどうしていきたいのかがよく分からない、計画性が感じられないという御意見もいただいている。

どちらの御意見もしっかりと受け止め、場合によっては抽象ともいえるアートに、より多くの市民の皆様に触れていただきながら、浦安のまちの魅力向上を図っていきたいと考えている。

本年度も、残すところあと2か月足らずとなった。各園や学校では1年間の思い出づくりとなる教育活動や、卒業する上級生に感謝の気持ちを伝

える行事の準備が始まっている。

子ども達にはお世話になった方々への感謝の気持ちと、たくさんの人たちに支えられた経験を力に変えて、次のステップに進む準備をしてほしいと願っている。

以上で、私からの一般報告とする。

次に、議事の第3、審議事項に移る。

議案第1号 浦安市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則の制定についてを議題とする。

事務局より説明を求める。

大塚教育総務部長 本案は、運用条項を改めるとともに、運用規程の見直しに伴う整備のため、所要の改正を行うものである。

なお、この改正は、公布日から施行するものとなる。

船橋教育長 ただいま説明がなされた議案第1号について審議を行う。いかがか。

影山委員 改正後は「毎月末日現在における園児数及び学級数等を報告しなければならない」ということかと思うが、回数が増えるということか。それは構わないが、どういう形で現状は報告しているのか。改正前であれば別記第14号様式という形で様式が決まっている。幼稚園の先生方はとても忙しいので、できれば簡単にコンピューターで打ち込んで入れられるとか、そういう形ならば手間にならないかと思った。提出方法について教えていただきたい。

興梠保育幼稚園課課長補佐 幼稚園職員の事務量を増やさずに、保育幼稚園課で集計ができるシステムで報告を受ける。

影山委員 園長が報告するわけではないということか。

興梠保育幼稚園課課長補佐 形式上は園長がすることとなる。

影 山 委 員 実際の事務としては、保育幼稚園課で集計されるものか。

興梠保育幼稚園課課長補佐 はい。

船 橋 教 育 長 ほか、いかがか。よろしいか。

では、これより議案第1号の採決を行う。

議案第1号について、事務局の説明のとおり、これを承認することとしてよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

船 橋 教 育 長 異議がないので、議案第1号 浦安市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則の制定については承認された。

次に、議事の第4. 協議事項に移る。

協議事項1 浦安市学校施設長寿命化計画の改訂についてを議題とする。
事務局より説明を求める。

内山教育施設課長 浦安市学校施設長寿命化計画の改訂について説明する。

まず、計画改訂の背景や目的であるが、本市では、令和3年3月に学校施設の維持管理コストの縮減や財政負担の平準化に努め、継続的な改修を行うことで学校施設の機能を維持することなどを目的として、浦安市学校施設長寿命化計画を策定した。

その後、令和5年9月に文部科学省から、学校施設の長寿命化計画の見直しに向けたコスト試算等に係る解説書が公表されるなど、さらに効率的・効果的な施設整備となるよう、随時計画の充実・見直しを図ることが必要とされている。

また、現行計画の改修サイクルと学校施設環境改善交付金要綱における長寿命化改良事業の改修サイクルに差異が見られることから、より効果的な施設整備実施のために、交付要綱との整合を図ることとした。

以上のことから、令和6年度から令和8年度の浦安市第2次実施計画と

の整合を図りながら、現行の計画策定以降に実施した改修事業等の実績を踏まえた改修サイクル及び改修実施計画ロードマップ、将来コストの試算の見直しを行うことを目的として、現行計画を改訂することとした。

今回の改訂目的以外の内容である主に児童数や生徒数、教室数の推計などについては現行計画のままとし、次回改訂の際など必要に応じて見直すこととしている。

お手元の資料、概要版を確認いただきたい。

1枚目の計画の背景・目的及び概要、学校施設の目指すべき姿、実態については、基本的な考え方の見直しはない。

2枚目の3、運営状況、活動状況及び老朽化の実態については、令和6年度時点の状況を反映して更新している。

4の学校施設整備の基本的な方針等については、改修サイクルを15年から20年に見直している。

6の長寿命化の改修実施計画では、今後の維持管理コストの見通しを更新している。建築後60年で建て替えを行う改築型と、建て替え時期を建築後80年まで延ばす長寿命化型を40年間で比較すると、長寿命化型では改築型に比べ1年当たり約10億円弱、コストが縮減される結果となっている。

船橋教育長 ただいま説明がなされた浦安市学校施設長寿命化計画の改訂について意見をいただきたいと思う。いかがか。

宮道委員 大前提の話だが、基本となっているのは、あくまでも既存の学校が維持した中で進められているということによろしいか。

思いのほか、子どもの数が減っているといった話も聞くので、どの自治体でも当然のことながら統廃合の問題も考えていると思うが、今のところ浦安市としては現状維持した中での計画であるという認識でよろしかったか。

内山教育施設課長 委員おっしゃるとおり、現状を維持していく上で必要な改修を行っていくという考えで計画を立てている。

船橋教育長 ほかはいかがか。よろしいか。

次に、議事の第5．報告事項に移る。

報告事項については、お配りした資料をもって報告とさせていただきます。

では、議事の第5．報告事項に対する質問を受け付ける。

影山委員 意識調査に関して2点ある。1点目は、13ページの子どもの携帯電話やスマートフォンの所有率について。小学校2年生のところを見ると、令和元年から6年にかけて減少している。小学校2年生で、コロナがあったから少し高かったのかとも思ったけれども、案外好ましい傾向かなと思っている。

スマートフォン、携帯電話は無ければ困る反面、管理が大変だということもあるので、小学校低学年あたりは持たなくてもいい社会になってほしいと個人的に思っているので、コメントとしてお伝えさせていただく。

もう1点は、20ページの浦安市の「教育施策の満足度(小中学生保護者)」について。小学生のほうで言うと、最下位が「国際理解教育の推進」。次の21ページの中学校のほうでも最下位のところが「外国語教育の充実」と「国際理解教育の推進」である。

私自身も浦安市で子どもを育てていて思ったのは、やはりこのところが弱いと思った。これは日本全国的にだと思うが、だからこそこは意識して、可能であれば充実していただきたい。この資料を見ても、この辺りの点数が低いところがやはり目立つところである。

私自身の感想だが、自分が英語を話すときと日本語を話すときは、案外感覚が違う。英語を話すときは、比較的自分がアサーティブになっているとか、主張するようになっていると実際に感じている。日本語のときのほうが、案外受け身になっているなど感じる。

これに関して、ほかのページにもあったけれども、先生方の意識調査の中で、子ども達があまり積極的ではないとか、自分たちの意見を言うのが苦手だというのは、例えば30ページの点数が低いところで「自分の考えを適切に表現する力」や「自ら課題を見つける力」というのが、教員か

ら見て子ども達、次のページの中学校も含めて、もしかしたら関連しているのかなと思った。ある意味英語教育を通じて、自分の意見をしっかり言うことを学べたらいいと思う。自分自身も海外に行ったときの経験を考えると、やはりそういうときには自分が言うことを言わないと、本当に物事が進まないということが多々あった。日本にいる限りは、ある意味そういうことは必要ないのかもしれないが、将来彼らが世界に向かって出ていくことを考えると、英語教育も必要であるし、自らの意見をしっかり言うということ、この二つは場合によっては関連していることもあるので、ぜひ充実させていただきたいというのが意見である。

船橋教育長 ありがとうございます。

浦安市は特別の教育課程を編成して、小学校1年生から中学校3年生の9年間を通して英語教育をというところで教育課程を組んでいる。委員がおっしゃったとおり、これからの社会で生きていくには、やはり英語教育というのはとても大切なことになってくると思う。

保護者の方々の満足度が低いということでは、学校がそういった国際理解や外国語活動など、活動したことをもっと十分に、今日はこのような活動をしたということを、保護者の方々に説明するというのも、一方で必要になってくるものだなと感じているところである。

吉野委員 学習指導に関して、「学校外の研修に積極的に参加し、授業に生かしている」という項目で、小学校も中学校の教員も進んでしている方がそんなに多くいない。

経年変化を見ると、小学校の先生は少し参加している数値が増えた。中学校の先生は減っている。これは仕事量とかそういったものに比例するのか、少し時間ができたから増えているといったことがあるのか。

例えば私の職業だと、給料に反映されるわけではないが、多くの人が夜間に新しいことを求めて勉強する。学校の先生は違うと思うので、働き方改革の中でお子さんと接する時間はきちっとある程度確保して、残業ではなく自分のスキルや教養を高めるためにこういった研修に参加する時間を

増やしていただいたほうが、子どものためになるのではないかと考えている。

船橋教育長 ありがとうございます

私が若い頃は、出張でいろいろな附属の小学校などに行く機会が与えられて、公開研究の授業を見させていただき勉強したという経験があるが、一つはコロナ渦でそういう公開研究の機会がほとんどなくなってしまった中で、実は興味深いデータがある。校長会で教員にアンケートを取る中で、いま一番学びたいのは何であるかという設問で、市外に行つての公開研究への参加や他校に行つての授業参観という選択肢がある中で、一番多かったのが自分の学校の先輩の先生の授業が見たいと。そういったニーズがすごく今はあつて、気軽に行けるということも理由かもしれないが、そういう中で三、四年育つてきている先生方が割と主流になってきている。

私が校長会で伝えたのは、人は経験があつて初めて「これをやってみたい」とか、経験したことの中から選ぶというところがあるので、もしかしたら若手の先生、若年層の先生はそういう経験がないのかもしれないと思った。だから、他市に行つての公開研究の参加などを選択しないのかもしれない。すでにコロナも5類になったので、やはりいろいろな授業を見るということを経験させていくことが大切であるという話はした。

ただ、先生たちが本当に一番学びたいのは授業づくりだというニーズがあつたので、委員のおっしゃるとおりだと思っている。そういう経験をたくさん積ませていきたいと、教育委員会としても考えているところである。

宮道委員 私も意識調査について、まず1点目は、影山委員がすでにお話しているところだが、国際理解教育が低いということである。教育長のお話だと、浦安市は特例で1年生から9年間かけて学ぶということであれば、その広報活動が満足いつていないのかもしれない。地方から見ればこんなに環境が整っていることはまずない。地方では、大分増えたといつても外国の方の人数は比較すると少ない。身近に海外の方がいるという意味では浦安は恵まれていると思うが、まだ活動やアピールが足りないということだと

思う。

この意識調査を集計するのも大変だったと思うが、国際理解教育が少し低いと分かったときに、もう一步進めて、保護者が具体的にどんなことを求めているのかが気になった。具体的にどういうことを求めているのかというのが分からないと、この数字を何年かに1回見て、足りないなと思うだけでは状況は改善しないので、何が求められているかが分かることが必要だと思った。

2点目は、25ページの「今後力を入れるべき教育施策」を見てみると、教職員の事務の軽減化というのが非常に重要で、事務が負担だと思っている割合が高いというのが改めて分かった。これについて、多くの自治体で導入されているような校務のシステムがあるとは伺っているが、これ以上軽減するために、具体的にどんなことが考えられているのか。

先生方は、例えば報告書をつくる時にA Iを使ってはいけいないのかとか、保護者からの苦情を受ける際にもなにかできないのかとか。例として、教員のメンタル相談において愛媛県がA Iを導入して24時間受け付けているといった事例もあるようだ。試験的にかもしれないが、これについて来週話を聞いてくるところであるが、工夫をしている自治体がある。

具体的に削減するためにどういうことができるのか、一步進めて考えていかないといけないと思ったのが2点目である。

3点目は、同じく25ページ、「家庭の教育力の向上支援」という項目がある。言葉の意味だけでは分かるが、具体的にはどういうことを想定しているのか。教育力を向上支援するためには、ではどういうことを先生たちは考えているのかを知りたいなと思った。

船 橋 教 育 長 では、調査を掘り下げていくということと、それから、向上支援というところはどうか。

小池教育政策課長 調査に関して、今回、こちらは集計結果として報告している。本来はこれだけのデータであるから、いろいろと相関関係等を調べて分析すればいいものになると思う。ただ、こちらはあくまで必要とする教育行政の施

策等のデータをざっくりと取らせてもらっているものである。各セッション、例えば国際交流など足りない部分に関しては、せっかくのデータであるから、その担当の課にもう少し深く活用していただき、何が課題なのかを分析してもらいたい。これから関係課と話をさせていただく。

宮 道 委 員 非常に貴重なデータだと思うので、これを報告するのであれば、なぜこのデータを取っているのか考え、それは改善するためであるとして、PDCAをしっかりと回していくといったことをイメージして取り組んでいくと、よりよくなると思う。

また、22ページの真ん中ぐらいのところにもあるが、家庭の教育力の向上支援が必要であるといった割合が少し高いが、これはどういうことをやれば家庭の教育力が向上すると考えているのかが、知りたかったところである。

船 橋 教 育 長 家庭の教育力の向上というのは、とても大切な、重要な課題の一つである。子ども達を育んでいくことを、学校と家庭と地域が一体となって進めていく中で、では家庭の教育力とは何か。今はまず時代の流れで共働き家庭が9割となっており、少し前ほど親御さんになかなか時間がないという状況を踏まえた上で、家庭の教育力の向上をどう支援していくかというところである。一つは、親御さん同士のコミュニティー、情報共有の場をつくることもある。また社会教育として家庭教育学級があり、あるいは親御さん向けの講演会やPTA中心の研修会もあり、多岐にわたる。学校ができることというのは、そういう場を設定することなのかと個人的には思っている。

情報共有し、共感し悩みを伝え合ったりするようなところから、親御さん同士の安心感につなげていくというのが、教育力の向上という直接的なことではなくても、精神的なゆとりが持てるように支援していくことも大切だと思う。具体的に、学校だけでなく社会教育も含めた研修会のような場を、共働き家庭が多いことも鑑み、土日に設定するというのもそうである。

家庭教育力の向上というのは、地域に力を借りなければいけないものであると思うが、逆に宮道委員はどんなことがあると思われるか。

宮 道 委 員 ちょうどコミュニティ・スクールもあるので、その場を活用してはどうか。私もPTAをやっているときに、お互い本音を言えないと改善しない事が多いと感じた。親も先生も行政も、なかなか本音が言えない、言いづらい状況にあるように思われる。けれども、信頼関係を築いていく中で、先生も本音ベースの話を地域のPTAや保護者の方に言える環境をつくらないと駄目だろうし、保護者のほうも、自分たちは自分たちで学校に求めることを本音で伝えられるような、そんな関係ができないとなかなか難しいだろうなと思う。

吉 野 委 員 大元に戻ってしまうかもしれないが、この意識調査の質問項目は、簡素に「何とかの推進」や「何とかの向上」などと書かれている。質問の構成として、最初から「情報モラルやコンピュータ活用など情報教育の推進についてどう思うか」という文言だったのか。それとも、実際にはもっと具体的にいろいろな質問があって、それを集約したらこうまとまったというものなのか。家庭教育力といっても、例えば「家庭に対してこういうことはどう思うか」などいくつもの質問を全部まとめたら、この言葉になったというものなのか。

小池教育政策課長 この項目は、総合計画の中の教育分野のものを抜粋しているものであり、初めからこういう文言で質問をしている。

吉 野 委 員 その計画から、教育委員会のほうで関連するものをこの学校調査で選んだということか。

そうであれば、家庭の教育力と言うといろいろなレベルがある。例えば人によっては、中学生の勉強が教えられるかどうかと取るかもしれないし、低学年では、お箸の持ち方をきちんと教えられるか、挨拶ができるようにしているかと取るかもしれない。捉え方によって全然違うのではないかと

思う。

船橋教育長　確かに家庭教育力というのは本当に多岐にわたっているので、どの部分を取るかというのは具体的ではなく、先生たちもざっくりと「家庭教育力の向上に自分たちも関わっていかないといけない」という思いがあるということが、ここでは見て取れる。答えている人たちにとっての家庭の教育力の向上に、どんな支援があるのかはそれぞれかもしれない。先ほど研修会などの話をしたが、宮道委員のお話も含めて、そこで教員も一緒に学ぶというか、そういう場があると学校と家庭が一体となれると思う。PTA主催の研修で、保護者はこういうことを学んでいるのかと教員も認識する。また、学習参観でスマートフォンや携帯電話の使い方といった情報モラルの授業などをするときには、基本的に保護者の方を呼んでいる。これは、子ども達への啓発でもあるし、家庭教育力の向上の一つの支援でもある。先生も保護者も一緒に、一体となっていくという意味では、「これは家庭で行ってください」と伝えるだけの関係性ではなく、共にコミュニケーションを取りながらの関係性が大切なのだと聞いて思った。

宮道委員　行政に意識調査の結果が渡されて、では今後どうしようかと考えられると思う。先生方は教育施策として力を入れるべきだと言っていることに対して、では行政としてどういうふうに対応していくかと考えたときに、これを一度には多分できない。では今回は、ここ数年は、これに力を入れていこうかと思う。そのときに、具体的にどんなこと現場は求めているのか、保護者の方は求めているのかということを把握した中で取り組んでいけると、満足度が高まるし、行政の信頼も高まると思う。

船橋教育長　ありがとうございます。

意識調査は、少し網羅的に教育施策に関しての満足度を聞いているものであるが、この調査方法については悩んだところである。精査するか網羅的に行くかというところで、教育施策として掲げている以上は、一つ一つに関して保護者や先生方の意見を聞こうとなった。

ただ、いま委員がおっしゃるとおりで、調査というのはするだけというのが一番駄目で、これをどう生かしていくかというのが今後の大きな課題になっていくと思うので、各課で、また課をまたいで全ての課でそれぞれが取り組んでいかなければいけないなと思っている。

ほかはいかがか。よろしいか。

次に、議事の第6、教育委員会からの一般報告に移る。

各委員の皆様から、近況報告などについてお一人ずつお願いする。今回は、佐藤委員、宮道委員、吉野委員、影山委員の順番でお願いする。

佐 藤 委 員 浦安中学校分教室のUMIについて、県外視察として関西に学びの多様化学校関連で行かれたと聞いた。実際に行った学校で、卒業証書についてその中学校の卒業証書ではなく、ASUという分教室の卒業証書だけを欲しいと言った生徒がいるという話を聞いたときに、ふと岡田さんという元日本代表の監督で、今は今治市で高校を立ち上げて理事長をしておられるのだが、その岡田さんの話を思い出した。

そこはサッカーの学校ではなく普通の高校で、校則も細かくなく、どちらかというと子ども達の主体性をどれだけ導くかという学校であった。第1期生を募集して、実際に来られたのが半分ぐらいところからスタートして、第2期生のときに、次の年に入ってくる生徒の保護者を含めた体験入学といったことを行っただ。そのときに、第1期生で来た生徒が「大人は何も言わないでほしい」と「僕らで次に来る子ども達、また保護者に対して、この学校はこういう学校だということを伝えるきちんとした1日をつくっていくので、僕らにその時間をください」というふうに始まったそう。

実際に、岡田さんはすごく不安だったと、次に来る子ども達がもしかしたら1期生によってゼロになる可能性もある、どうなるんだろうと思ってはいたが、子ども達に任せたところ、実際に始まってみたら、本当にすばらしくて、保護者や生徒に対して一対一でこの学校を知る個人ディスカッションがあつたりとか、複数でもグループディスカッションがあつたりとか、この学校でどういうふうに授業が1日行われているかというのを実際

に体験してもらうブースをつくったりとか、1期生の生徒たちが主体性を持っていろいろなことを作り上げていったとのこと。最後に一人の生徒がスピーチをして、この学校はこういうものだということを話したらしいが、岡田さんは本当に感激して泣きそうになったと。その生徒が話した後、少し時間が余ったので、「岡ちゃんにも話してほしい」ということを言ったそう。岡田さんは生徒に「岡ちゃん」と呼ばれているとのこと。

そこで、子ども達が、自分たちが中心となって学校をつくり上げているというところで、浦安に今度できる浦安中学校分教室のUMIでも、やはり子ども達自身が、この学校に誇りを持って通えるようなところにするため、自ら作っていくためにどうするかということを、僕たち大人がサポートできたらいいなというふうに感じた。

船橋教育長 今、卒業証書の話があったけれども、視察に行ったときに、分教室なので本来は本校の卒業証書を渡すところなのだが、子ども達から「分教室ASUという学校の卒業証書が欲しい」という声が上がったと。もちろん卒業証書であるので、本校の卒業証書を渡すことにはなるのだが、その子ども達の思いを大切に、本校のものとはまた別に、行政でASUの卒業証書を作ったという話を伺った。

今、佐藤委員からあったように、UMIに通う子ども達も、自分たちの学校として誇りを持って卒業してほしいと私は思っている。「UMIを卒業した、第1期生なんだ、自分はUMIの卒業生なんだ」というところから社会に出ていってくれたら、大きな大きな力がつくのではないかなと思っていて、なおのこと私どもがまた地域の皆様のお力を借りながら、UMIをそういう学校にしていきたいなと強く感じた卒業証書のエピソードである。岡田元監督の学校の話も、こんなふうになったらいいなと思いながら聞いていた。

宮道委員 佐藤委員のお話の続きである。私のふるさと、今治市の話がありとうございます。実は岡田元監督のFC今治高校については、FC今治の社長に会ったこともあり、いつか行こうと思っているので、その際はまた報告

する。

少し私ごと絡んでくるのだが、実はいま本を執筆している。30年ぐらい前の、過去の学生時代を振り返りながら、組織マネジメントについての本を書いている。

私は岡山大学のハンドボール部出身で、今、歴史が76年ある。当時、中国四国のリーグで一番下のリーグに唯一落ちたときがあり、実はそのときのキャプテンが私である。そこから留年して頑張って立て直したという体験とか、その後、卒業してからのことを書いているのだが、そのときに会った本がある。

それは、当時京都大学のアメリカンフットボール部がとても強かった。有名な選手も多くいた。そのときの監督が水野彌一さんで、その方の単行本「一つのことに一流になれ」という本に学生時代に出会った。

多くの方が、30年前の体育会がどういう組織をイメージしているかというと、多分1年生は使われる立場で、4年生は使う立場のような「上の言うことは絶対だ」みたいなものだと思っていると思うのだが、当時私が目指した体育会はそういう組織ではなくて、水野監督のそのときの本を読んで影響を受けて、分かりやすく言うと逆ピラミッドの組織である。要は、4年生が一番下の立場である。1年生は入ってきたばかりだから、アメリカンフットボールという競技自体が高校からやっているところが少ないので、覚えなないといけない。それに集中してもらって早く戦力になってもらいたいということで、1年生が一番上。そういう組織の在り方といったものにそのとき触れた。私はそのとき、これを目指すべき姿にしようと思って、すぐにとはいかなかったが取り組んできた。

でも外から見ると、下級生は一生懸命、上級生がやると言ってもいわゆる整備や清掃、準備などの作業をやっていた。それはなぜか、上から言われたからやっているのかと聞いたが、そうではないと。あんなに上級生が頑張っている姿を見て、私たち1年生が何か貢献できることはないかと考えて、これしかできないと思うからやっているのだと。これは本当にすばらしいと思った。

最近、若い学生さんに会う機会があるが、社会人も就職してすぐ辞める

方もいる。それは多分、教員も一緒だと思う。一般の企業もそうである。そのときに、今、若い人たちがどんどん減っていて、どこも人手不足で、だから取り合いになっているわけである。でも、優秀な人に来てもらわないと、やはり正直には困る。どこも同じだと思う。

そのときに、では上の人たちは何を考えるべきかということに行き着いた。学校でいうと、校長先生とか教頭先生とかベテランの先生は、年数が経っているから偉いのか。そうではない。若い先生がどういう形で、今何を考えているのかを、やはりコミュニケーションを取りながらやらないと、多分せっかく就職してもどんどん辞めていく。

これは学校現場だけではなく企業もそうだと思う。企業も今そうやってすぐ辞められて、でもほかに転職できるところがいっぱいあるので、どの企業も頭を抱えていると思う。

そんなことを考えたときに、いま一度、人が組織をつくるわけなので、どういう組織を、例えば学校なら学校、企業なら企業、部活なら部活、ある意味、全部同じだと思うけれど、どういうふうにあるべきかといったことを、いま一度考える必要があると思い、今そういった本を書いているということである。これからどんどん若い人が減るので、我々も考えないといけないのではないかと問題提起する。

船橋教育長 この間、校長研修会、教頭研修会で私も話をしたところだが、やはり若年層の人材育成というところ、組織のつくり方も含めてどうしていこうかということは校長たちもいろいろ考えて悩んでいる中で、私が話をしたのは「今の若い先生方を知るところから始めましょう」ということであつた。

自分たちが若かった頃の感覚とは違ってきているし、価値観も変わってきている、それは社会が変わってきているし、育ってきた環境も変わってきている中で、自分の価値観や自分が育ってきた環境の範疇の中で関わると、なかなか伝わらない部分があるということで、今、宮道委員のお話を伺って、これからいろいろな先生方と関わっていくところで、その人を理解するということがまず大切だと改めて感じた。

吉 野 委 員 1月13日は、ディズニーシーでの成人式に参加し、とても印象的だった。だんだんとまとまってきたような気がした。毎年見ていると、まとまりが良くないように思える回もあったけれど、今回はとてもよかったように思う。また来年は、もっといいのではないかと期待している。

それから、今年に入ってから感染症はほとんどなくなった。今インフルエンザの方はほとんどいないようである。ただ、依然としてコロナは少しずつ発生しており、思わぬ人がかかったりするので、年齢など特徴的なものはないようだが、引き続き注意して対策をして欲しい。感染が広がるようなことにならないよう祈っている。

船 橋 教 育 長 成人式は、アナウンスが大変上手であった。本当のアナウンサーのようで、実行委員会の方たちも皆が頑張っているなというのを感じた。

影 山 委 員 1月の末ぐらいに総合公園の海の近くを走っていたときに、いいことがあったのでお伝えする。

平日だったが、午前中少し時間があつたので走っていたところ、幼稚園児か保育園児くらいの子ども達が、マラソン大会といったような、境川の河口から高層ホテルのところまで、500メートルもないぐらいのところを一生懸命走っていた。

用意ドンで始まって、御多分に漏れず5メートル、10メートル走るとすぐに走れないとなる園児がいる。それで泣き出してしまい、どうしようどうしようとなるのだが、保育士の方が一生懸命に連れて途中まで行って、でも途中まで行くともう歩くのも嫌になってしまったみたいで、泣きながら大変そうだったところだが、結局、その後最後の100メートルぐらいはどうしたのかというと、その保育士の方が、もう子どもがどうしようもなくなってしまったので抱えて、一緒に歩くのではなく一生懸命走って、子どもをゴールまで連れていってくれていた。

その保育士の方も一生懸命というか、とても大変そうな顔をしていたのを見ていて、本当に大変なことだなと思ったところだが、逆に市民の目か

ら見ると、こういう一人一人の先生方が献身的に働いていただいている、そういうふうにも子ども達のことを思っていていただいているので、こういった幼稚園、保育園あるいは小学校、中学校というのは成り立っているんだなというのを改めて思った。

本当に、そういう先生方に感謝の気持ちをお伝えできればと思い、この話をこの場で話させていただいた。本当にいつもどうもありがとうございます。

船橋教育長 私も共有しており、そういった市民の方の声や教育委員の方の声が届くと、次にまた頑張ろうという気持ちになるし、教員というのは子ども達の頑張る姿とか、分かったとかできたというあの笑顔が、ありがとうという言葉とはまた違うのだけれども、モチベーションになる。働き方改革を進める上では、「働きがい改革」というのを私は常に言っているが、先生たちにとってはそういう働きがいのある活動やそういう声を聞くことで、次も頑張ろうという気持ちになっていくのかなと思う。どこかの機会にもまた伝えていきたいと思う。

次に、議事の第7、その他に移るが、本日はその他の上程はない。

以上で、令和6年度浦安市教育委員会2月定例会を閉会する。

閉 会 （午後3時55分）